

# 新アリーナ建設に係る要望署名書

県では、2018年(平成30年)6月定例会県議会において、2031年第86回国民体育大会を本県に招致する方針を明らかにしました。

これまで、1984年(昭和58年)竣工した小瀬スポーツ公園体育館は、1986年(昭和61年)かいじ国体以降、本県アリーナスポーツの普及発展に貢献しています。

しかし、緑が丘スポーツ公園体育館と同様に、経年による施設の老朽化、施設基準への適合、館内関連施設の充実などの課題が生じています。

また、大規模な国内大会では、複数のコートが必要とする中で、できるだけ競技会場を集約し、競技運営の効率性・公平性や、選手等の移動の安全性・利便性を確保する必要があります。

そして、施設を利用するすべての人にとって、暑さや防災対策を始め、安全かつ快適・円滑な活動空間の整備に配慮する必要もあります。

さらに、将来的に、ホームチームを作ろうとしても、観客席が少ないため、ホーム開設条件や経営の見通しが立たないことが考えられます。

このようなことから、メインアリーナでバスケットコート4面・固定観客席5000席、サブアリーナで同コート2面等を有する新たなアリーナ建設を要望するものであります。

山梨県知事 殿

名 前	住 所

競技関係団体等名 ( )

## ＝新アリーナの目指すべき方向性＝

- 方向性1 生涯スポーツやレクリエーションを楽しめるアリーナ  
☞健康増進に寄与する施設、誰もが使いやすい施設
- 方向性2 プロスポーツを含めトップアスリートが競技できるアリーナ  
☞大規模大会やプロスポーツの試合が開催できる施設、快適に観戦できる施設
- 方向性3 競技力の向上を支援するアリーナ  
☞競技者や指導者の養成を支援する施設
- 方向性4 多目的な利用を想定したアリーナ  
☞コンサートやシンポジウム等の各種イベント開催に対応できる施設
- 方向性5 障害者に配慮したアリーナ  
☞バリアフリーやユニバーサルデザインに対応した施設
- 方向性6 環境への配慮や周辺のまちづくりと調和したアリーナ  
☞太陽光発電、雨水の有効活用、景観等に配慮した施設
- 方向性7 県民の命を守る防災拠点としてのアリーナ  
☞広域災害対策活動拠点機能を有する施設

## ＝求められる新アリーナ像＝

- 1 メインアリーナの競技面数は、バスケットボールコート4面程度の確保をお願い致します。  
(バレーボールコート4面、ハンドボールコート3面、バドミントンコート24面、卓球30面、フットサルコート3面、体操・新体操での使用)
- 2 メインアリーナの観客席数は、他都道府県の同規模体育館の状況やプロバスケットボールの観客者数を踏まえ、7,500席程度(うち固定席は5,000席程度)の確保をお願い致します。
- 3 大会運営を考慮し、バスケットボールコートで2面程度のサブアリーナの整備をお願い致します。
- 4 サブアリーナの観客席数は、チーム関係者や来場者の待機スペースを確保する上から500席程度の整備をお願い致します。
- 5 健康増進や体力向上を目的としたトレーニングルームの整備をお願い致します。
- 6 スポーツ医・科学等を取り入れた施設等の整備をお願い致します。
- 7 快適な利用環境を確保するため、冷暖房設備の整備や電光掲示板の設置、多目的室等を整備するとともに、コンサート、シンポジウムなど各種イベント開催に対応できる関連施設や音響設備等の整備をお願い致します。

### ※メインアリーナをイメージする施設(例)

宮城県総合運動公園体育館、群馬県総合スポーツセンター、高崎アリーナ  
小田原アリーナ